

先進地を行く

校区単位のまちづくりを進めている 水上校区まちづくり協議会へ(みやま市) 佐賀県江北町議会へ

総務

総務常任委員会が2月18日、19日、先進地を視察しました。レポートを紹介します。

委員	委員	副委員長	委員長
田中	松枝	中島	井上
和美	恒男	征行	護

佐賀県江北町

「議会の活性化」

議会議員の定数、常任委員会及び議会運営委員会の構成等について研修を行った。

江北町議会議員の定数は、数年前に10名と削減された。決定した理由は、周辺自治体との合併を考えていたことや、また町民からも減らせという声が多かったためである。しかし、今、議員の数は少なく、十分に議論が尽くされていないのか、住民のニーズを十分にくみ取ることができているかという問題点が出てきているようである。

議員の報酬については、本町よりもやや高く、費用弁償については日額900円とのことであった。

常任委員会は2委員会で構成されている。

予算、決算の審査は、全議員による特別委員会を設置し、各2〜3日間行っている。全議員が全般について詳細に審議することができるといふことである。

議会運営委員会の構成は、各常任委員長と委員会より各々1名を選出している。

一般質問の通告者は、毎回5〜7名ぐらいである。

議会広報は、町広報と一体形式で、年4回発行している。一体形式の利点は、よく読まれるようになり、また配布の手間が半減したということである。

議会以外で税収の確保についてお伺いしたところ、佐賀県では滞納整理機構を設置し、そこへ県内各市町村より職員を1名ずつ派遣し、滞納徴収の成果が上がっているということである。



江北町議会からの説明

学校給食費については、滞納はゼロである。徴収を区の育成会に依頼していることが特徴的であった。

校区単位のまちづくり

みやま市の校区単位でまちづくりを進めている水上校区まちづくり協議会を視察した。

みやま市瀬高町には、7つの小学校に校区公民館が整備されており、この施設を有効に利用しようということから取り組まれた。

この7校区のうち4校区で町づくり協議会を設置し、校区公民館を拠点に活動をしておられる。

水上校区まちづくり協議会の組織作りについては、旧公民館組織を利用し、区長会もその中に入っている。

事業については、旧公民館事業を中心に取り組み、各部署での活動と全体の事業が組み合わされ、充実した事業がなされている。

予算(収入)については、市からの補助金と地区館管理運営費及び協議会会費とし

て一世帯から1500円が徴収されている。校区民の方々にこの活動に十分理解してもらえよう努力されているが、苦慮されているのも現状である。また、市からの補助が平成22年度からカットされることから、事業の縮小化など含めて検討されている。

道の駅『みずなし本陣 ふかえ』、『きくすい』

『みずなし本陣 ふかえ』は、雲仙普賢岳噴火で特に大きな被害を受けた場所であり、被災家屋の保存したものや火山学習館などがあつた。長崎は、観光地などが多く、土産品の多さ、野菜果物や加工品、レストランなどが軒を連ねていた。

『きくすい』は、国指定文化財「江田船山古墳」のそばにあり、温泉やレストラン、農産物をはじめ物産販売施設などひとつの建物の中に入っていた。

土産品や農産物をはじめ海産物、加工品など、多種多様なあり、平日にしては良く賑わっていた。